

e-ビーフNEWS 北の牧場から

March 2019

十勝の雪解け

雪がない一例外年に比べ大雪がなかったため積雪がありませんでした。そうは言っても十勝の寒さで、街の角や家裏には融けない雪がこんもり山となっています。日中の陽が痛いほどに感じます。朝は6時前から明るくなり夕方は5時過ぎまで明るいので、何か闇を抜け出した気がします。気温も上昇 朝ではやっとひとケタ台、マイナスですが、日中ではこれまたひとケタ台プラスに転換してきました。道路はカラカラに乾いていて走り易く、それに併せ覆面やネズミ取りが活発に動いています。

川は氷のかけらの流れはなくなり透いた青々した流れです。これから雪解け水が一気に流れ込み白濁してきます。これを「ゆきしろ」と言います。ゆきしろは春の訪れを告げ農家も農作業の準備に掛かります



活動のお知らせ

- 1月25日(金) 新得 道総研 畜産試験場 18年度第2回肉牛飼養技術研修会開催 25名参加しました
2月26日(火) 北海道オーガニックビーフ振興協議会
第4回戦略会議(拡大)栽培力強化講習会:北里大学獣FSC八雲牧場
2月27日(水) 学林ファーム視察(北里八雲牛町内生産組合長:佐藤氏の法人化牧場)
八雲町活性化センターファームメイドユラップ館栽培力強化講習会 30名参加
3月30日(土) 13:00 麻布大学(日本畜産学会第125回大会会場)
日本産肉研究会第23回学術集会 「シェフとバイヤーに聞く! 赤身牛肉の最前線」4名の演者から話題を提供して頂く予定
案内は研究会ホームページから▶<http://www.agri.tohoku.ac.jp/keitai/jsmp/index.html>



NEWSばかり読み

- 総務省 東京圏へ14万人転入超過 一極集中化
2/1:政府の地方分散策裏腹
- 農林水産省 19年度予算 後継牛バンク普及で導入費用補助
2/4:相場上げ要因
- 和牛子牛 18年度取引頭数1%増 減少に歯止め 2/4:恒久になるか
- 大空町 オホーツク有機農業セミナー開催 2/4:浸透性は如何に
- 福島県調査 営農再開せず未定者が6割 2/5:震災被害の深刻性
- 愛知県 豚コレラ発生の疑い 2/6:とまらない
- 豚コレラ6府県に拡大 2/8:とまらない
- 農林水産省 食品の低温管理でJAS規格設定
2/11:当たり前と思っていた温度管理
- 船舶燃料2020硫黄規制で海上運賃上昇の気配 飼料肥料に影響
2/13:リスク
- 豚コレラの影響で豚肉相場乱高下 自給率低下に拍車 2/15:風評被害顕著
- JA新はこだて 営農指導にICT(農業情報通信技術)導入実験
2/15:進むかJASスマート化
- 農林水産省 農福連携に「ノウフク」JAS新設 2/15:浸透性波及効果検証
- いきなりステーキ ニューヨーク店7店閉鎖 2/16:いきなりですか
- 18年度輸入野菜が過去最高の105万t超え2年連続更新
2/18:外食中食に定着化

- 1万円札流通が100兆円超え タンス預金の拡大 2/18:持ってるね
- 電子マネー普及で硬貨の流通が減少 2/18:地方はまだ小銭は必要
- 国交省 トラクターの規制緩和で公道走行延期 2/19:地方は早めに
- 1月生乳受託で5カ月連続減少の中、茨城ギガファームは健闘
2/19:酪農集約化進む
- 18年素牛相場 初生F1最高の41万円3年連続で減少ホル13万円
2/19:肥育コスト上昇
- 農林水産省 豚コレラワクチン餌のイノシシ使用で検討
2/20:防疫対策の多様性か
- ふるさと回帰支援センター18年希望調査で北海道が3位(昨年16位)
2/20:待ってるぜ
- 自動宅配ロボットの公道走行実験解禁 2/21:街並みに活気が
- 農林水産省 旅行者の不正持ち込み畜産物が4万2千件と最多 一番中国
2/21:ルール分かって
- 1月貿易収支赤字1兆4千億円で拡大 4期連続 2/21:貿易立国かな
- 農林水産省 鶏卵・卵製品でEU輸出解禁 2/23:AWF課題が残るかも
- アフリカ豚コレラ ベトナムでも発生 中国モンゴルに次いで3国目
2/25:伝播深刻
- 加工米飯(パック飯)が18年度39万tと最多更新
2/25:炊飯ジャー要らないかも
- 全国生協連調査 産直供給高7%増 特に畜産物好調
2/27:畜産物の信頼性か

東京直近NEWS (2/28 Shi-REPORT)

ホルス

相場はほぼ横ばい状況で推移。
頭数の出回りが少ないため、北海道等の相対仕入れ価格は相場よりプレミアム化必至。供給に対し頭数が追いついておらず、販売状況は決して引き合い強い環境ではないが問合せは多い。特にチルド・冷凍パーツの切落しや原料としての赤身関係が不足している。ステーキ材等は一般感でてきており、なぜかスネや定番の切落し需要。
これから春先以降の焼き材シフト時期にどう状況変化してくるか注視。

経産牛

経産牛相場は大きな変動ないものの、高値安定に変化なし。
出回り頭数が少ないため、ガリ系も枝肉高値維持しており挽き材のコストは上昇してきている。
ホルスが不足状況により、代替えとして経産パーツ提案し、状況待ち問合せあるが、経産牛のイメージや表示上の問題等で中々販路広げられない。牛正肉関係4月頃からの値上げ示唆有り。

左先生の畜産学研究NEWS

2月の報道は一齐に厚労省の毎月労働統計の不正問題に集中しました。保険金給付の過少査定、その額800億円、不足額の補正支給は4月から口座振替です。国の政策立案の根幹をなす統計自体の危うさ、信憑性が問われ、それを根拠にした政策や国家予算にも影響し、閣議決定のやり直しなどに至りました。公文書に次いで政府統計までも改ざんが出来るなら政策の失敗も隠蔽でき、これでも先進国かと言う事態です。国の統計は数字の大証で物事を納得させる力があります。税金を払う国民の信頼を得るために専門家で構成したという統計委員会を置きましたが、政府統計をチェックするという民主主義の基本が機能していません。政官の癒着や忖度は自然災害と人間との闘いではなく人と人の政ごとなのです。経済効果を期待した2020東京オリンピックでもレガシーとされる持続的開発(SDGs)の考えは、将来の人間の欲望の見直し持続的な生産体制を維持しようというもので、経済一本の縦社会とは異なる価値観の指標が必要なのです。地球規模での自然環境の保全などがあり、農業・食糧生産もそのひとつです。2月末までに届いたe-びーふNews63号の学術情報は以下の通りです。

1. 畜産技術#765, 2019.2

研究レポート2: 放牧が黒毛和種繁殖牛の酸化ストレス、免疫および栄養指標に及ぼす影響(原恵他、福島県中家保)

放牧飼養の酸化ストレス効果を検証するために6才程度の黒毛和種繁殖牛を4ヵ月間オーチャード、ペレニアルライグラス主体の草地に終日放牧し、血漿中酸化ストレスおよび酸化ストレス指標(TBARS, SOD)、免疫指標(IL-8, IgA)、脂溶性ビタミン(Vt A, E)などを検討しま

した。放牧中や後半には免疫指標に未放牧区と有意差は見られなかったものの、TBARSが低下、SODは上昇し、血中Vt A, Eが高まり、放牧による酸化ストレスの軽減効果が認められました。

2. 肉用牛研究会報#106.(2019.2)

加工形態の異なる飼料用米を組み合わせることによる黒毛和種雌牛肥育における飼料用米利用効率の向上(河原直哉他、山形県農済中畜診)

黒毛和種肥育雌牛を26ヵ月齢から6ヵ月間破砕玄米や圧パン粉米、粉米ソフトグレンサイレージ(SGS)などを組み合わせて給与しルーメン発酵や枝肉成績を検討しました。飼料用米の組み合わせでは、乾物中粉米SGS32.5%、圧パン粉米25%、破砕玄米5%程度でルーメン発酵は維持され、枝肉成績も良好と思われました。

3. 平成30年度畜産関係新技術発表会(2019.2.22;札幌)

保存期間が乳用種牛肉の理化学特性および官能評価に及ぼす影響(道総研畜試、肉牛G, 大井幹記)

乳用種去勢牛6頭の牛肉を屠畜後70日までウエット・エイジングし、イノシン酸とグルタミン酸から算出するうま味強度などの理化学的特性の経時変化を検討しました。イノシン酸はエイジング中の変動が大きく、エイジング10,30,50日までのうま味強度に有意差は見られず、胸最長筋、半膜様筋の脂肪含量と共に乳用種牛肉の品質情報の指標として有効と思われました。

国産牛 NEWS

話題提供1. 「欧州諸国の有機畜産とアニマルウェルフェア関連法制との位置付け」 全4回シリーズ④ 立教大学経済学部 大山利男准教授

ヨーロッパ各国の有機製品群の市場シェア (2014)

Product group	Austria	Belgium	Finland	France	Germany	Netherlands (2013)	Norway	Switzerland
Beverages		0.9% ¹	0.6%	3.0% ²	1.7%		0.1%	2.7%
Bread and bakery products		1.7%	1.2%	2.5% ³	7.1% ⁴	3.2%	1.0%	4.6%
Cheese	8.5%	1.7%	0.9%	1.2%	3.6%		0.5%	6.0%
Eggs	17.2%	11.2%	12.0%	22.1%	16.7%	12.7%	7.5%	22.7%
Fruit	10.7%	3.5%		4.3%	6.7%		1.7% ⁵	10.1%
Meat and meat products	3.5% ⁶	1.3%	0.6%	1.6%	2.1%	2.8%	0.3%	4.8% ⁷
Milk	15.7%	3.0%	3.2%	10.8%	8.1%		4.0%	18.9%
Milk and dairy products		2.1%		3.2%	8.6%	4.8%	1.8%	11.0%
Vegetables	12.6%	5.4%	3.2% ⁸	4.0%	8.6%	3.9% ⁹	3.6%	14.6%

¹ Fruit juices, wine and beer - ² Vegetable drinks, fruit and vegetable juices, wine and alcohol - ³ Flour was included in previous data; it is excluded in the new calculations, which also include fresh pastries. Hence this data is not directly comparable with those from 2013. - ⁴ Bread only - ⁵ Fruit, berries and nuts - ⁶ Meat only - ⁷ Includes fish - ⁸ Fruit and vegetables

Source: FBI-AMI Survey 2016 based on national data sources

IFOAM EU Group, 2016. Organic in Europe: Prospects and Developments 2016, p31

